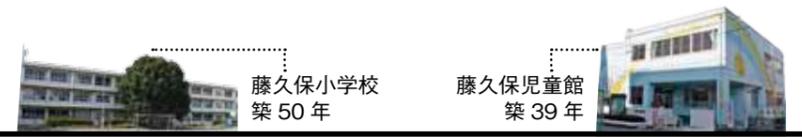
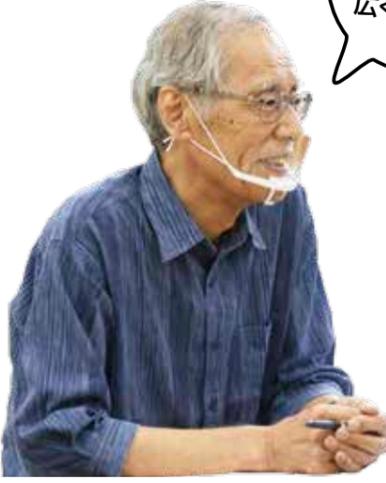


図書館の裏方の作業室を広くしたい!



支えるバックヤードの事務スペースが非常に狭いので、新しい施設ではスペースを確保してほしいです。

松村：新型コロナウイルスの影響で休校になった子どもたちの学習の場がないことです。今後もし休校になっても勉強の疑問を解決できるような、学習センターのような施設ができればいいと思います。



↑図書館の狭い事務室。物が入りきらない状況です。

松村：若い人はカフェやおしゃくさんあると思います。

町長：藤久保拠点施設は様々な施設が集まった複合施設になります。複合施設に期待するものはなんですか。

多胡：「そこに行けば何でもできる」という施設になったらいいと思います。兄弟で遊びに行っても、上の子は図書館、下の子は支援センター、といったようにそれぞれ楽しめるのが複合施設のいいところだと思います。新しい施設では、今までとは違ったことができるようになると思います。例えば、児童館に子どもがお弁当を食べられる場所をつくったり、三芳に引っ越してきたばかりのママやパパの孤立を防ぐためのサービスを行うなど、できることはたくさんあると思います。

自由な発想の施設

町長：藤久保拠点施設は様々な施設が集まった複合施設になります。複合施設に期待するものはなんですか。

多胡：「そこに行けば何でもできる」という施設になったらいいと思います。兄弟で遊びに行っても、上の子は図書館、下の子は支援センター、といったようにそれぞれ楽しめるのが複合施設のいいところだと思います。新しい施設では、今までとは違ったことができるようになると思います。例えば、児童館に子どもがお弁当を食べられる場所をつくったり、三芳に引っ越してきたばかりのママやパパの孤立を防ぐためのサービスを行うなど、できることはたくさんあると思います。

未来の公共施設を考える座談会

8月12日(水)、藤久保公民館のホールに藤久保在住の4人と町長が集まり、藤久保地域拠点施設整備事業で建設される未来の公共施設について語りました。



藤久保第2区区長 伊藤 敏彦さん | 図書館協議会会長 阿部 英雄さん | 元藤久保中学校生徒会長 松村 成さん | 藤久保小学校PTA 多胡 晴子さん | 三芳町長 林 伊佐雄



↑ホールを広く使って行った座談会の様子。

手ざわりがいい町

町長：今年は藤久保地域拠点施設整備事業に関して、多くのご意見をお聞きして、基本計画をつくる年になっています。早速ですが、皆さんの三芳町や藤久保地区への印象をお聞かせください。

伊藤：私は昭和54年に三芳へ引っ越してきました。退職してから、地域の交流の場に参加するようになりました。だんだんと町のことが見えてきて、住みよい町だと感じています。

阿部：私は三芳に住み始めて45年になります。三芳の人口や規模は、とても住みごこちがいいと感じています。人の表情がお互いに見えるし、町の手ざわり

現在の公共施設の課題

町長：藤久保地域にある、現在の公共施設について課題はありますか。

伊藤：駐車場が少ないと思います。新しく作るとすれば、2階建てにするなどして、台数を増やせたらいいと思います。また、緑も少ないので藤久保地域拠点施設を建設しても、緑を残せるように工夫できたら良いと思います。

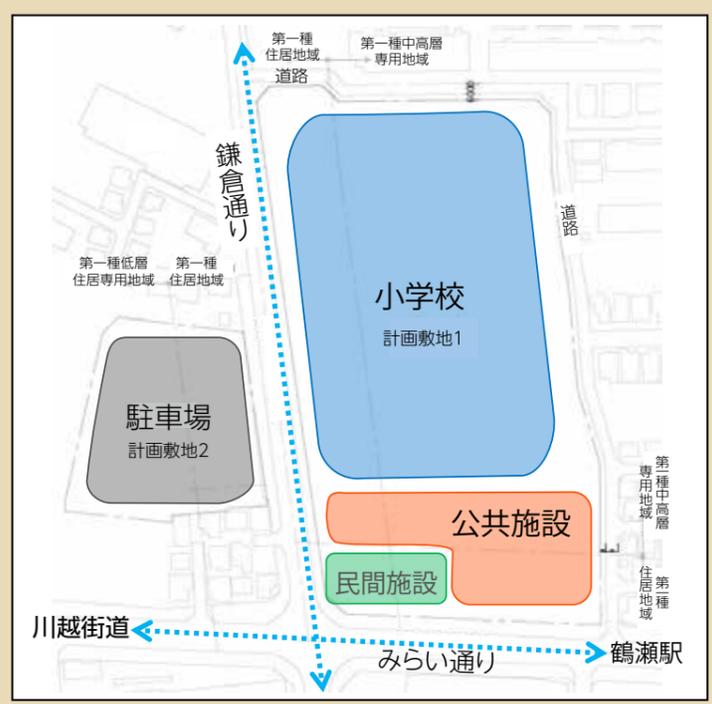
阿部：図書館のスペースが足りないことです。特に、図書館を

がすごく良いと思います。

松村：僕は10年前に三芳へ引っ越してきました。三芳に住んでいて思うのは、時の流れが穏やかだということです。都心にもすぐ行けて、帰ってくるのが、ほっとできるところがとても気に入っています。

配置案を公開 敷地内の施設の位置は?

現在の藤久保小学校とみらい広場周辺の公共施設がある場所を整備する藤久保地域拠点施設整備事業。敷地内の施設の位置について、現時点では小学校と公共施設を近接して配置し、相互利用を図れる案を検討中です。民間施設についても、公共施設との相乗効果を発揮できる案を計画しています。



↑施設間の連携を考慮し、小学校と公共施設を近くに配置した案です。

